



ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

<https://lora-saga.jp/>

<https://lora-saga.jp/ialt/>

No. 104

〒840-8502 佐賀市本庄町1 佐賀大学理工学部内 TEL/FAX : 0952-28-8712

令和4(2022)年7月15日

低平地研究会

第一回運営委員会の開催

2022年5月27日(金)13:30~14:20に2022年度の運営委員会が開催されました。定例の活動報告、2021年度の決算と2022年度の予算案に関する議題の審議が行われ、承認されました。今年度は新しい役員案が提示され、承認されたことで、会長、運営委員長、特別顧問が交代となりました。新会長に王丸義明氏(佐賀県建設技術支援機構理事長)、新運営委員長に大串浩一郎教授(佐賀大学理工学部)がそれぞれ就任されました。

活動報告会の開催

運営委員会の後、同日の15:00~15:45において、活動報告会が開催されました。昨年度はオンライン形式でしたが、本年度は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてたので、対面とオンライン形式を併用したハイブリッド形式にて開催されました。

冒頭の王丸会長の挨拶を皮切りとして、運営委員長からは運営委員会の報告、6つの専門部会(歴史・文化専門部会、地域創生専門部会、環境専門部会、都市空間専門部会、基盤整備専門部会、低平地防災特別部会)の部会長から2021年度の諸活動が報告されました。



王丸会長(左)と大串運営委員長(右)

特別講演会の開催

活動報告会後の16:00~17:30にて、ハイブリッド形式によって特別講演会が開催されました。本年度は講師に中岡義介氏(元佐賀大学教授)にお越しいただき、『国土のリ・デザイン』わたしたちはどのような国土をつくりあげ、どう使ってきたのか』と題してのご講演でした。会場のみならずオンラインからも多くの方が聴講し、147名(そのうち対面70名)の参加数でした。

我が国の国土や低平地の成り立ちからどのように開発されてきたのかを紐解き、低平地の特徴やそれらを背景として形成された生活空間について解説されました。講演後には質問も多く寄せられ、活気のある講演会となりました。

講演会の録画は研究会ウェブサイトの図書室にて会員限定で視聴できます。



講師の中岡義介氏



会場の様子

環境専門部会 講演会の開催

3月17日(木)13:30~15:00に島岡隆行氏(九州大学工学部工学研究院環境社会部門教授)をお招きし、「水害における災害廃棄物発生状況と発生量の推定」と題した講演会を開催しました。参加者は24名で、低平地研究会の会員をはじめ、災害廃棄物処理の責任者である佐賀県内の市町村及び水害の対応や水環境保全対策の関係者、そして佐賀大学の関係者といった方々が参加されました。

近年、全国的に水害が頻発し、低平地でも被害の拡大が懸念されています。災害後に発生する「災害廃棄物」の対策は、被災地復旧において重要な課題となっています。災害に伴う災害廃棄物の発生量や水害による廃棄物の組成割合と地震災害等の組成割合の違い、そして、災害廃棄物発生量の新たな推定方法及びドローンによる災害廃棄物仮置場のモニタリングの取り組みが紹介され、災害廃棄物の対応に関する問題点や技術等について情報提供していただきました。



講師の島岡 隆行氏



基盤整備専門部会・低平地防災特別部会 講演会の開催

3月28日(月)13:00~16:00に「二層地盤上の剛性基礎の支持力解析」、「降雨特性と河川浸水面積への影響」と題した2部会連携による講演会がハイブリッド形式として開催されました。

前者の講演会では山本健太郎氏(西日本工業大学准教授)に粘性土上に砂質土を有する二層地盤上の剛性基礎の支持力解析に対し、有限要素法を適用した事例について講演していただきました。様々な二層地盤の強度パラメータの組み合わせに対する極限支持力とH/Bの関係や、有限要素解析から求めた極限支持力値と既往の研究結果との比較などについても話題がおよびました。有限要素解析による極

限支持力の値は実務に対しても有用であることが示され、地盤の支持力解析に関する理解がより深められた機会となりました。

後者の話題は橋本彰博氏(福岡大学准教授)にご提供頂きました。地球温暖化後の降雨などの気象の予測結果であるd4PDF(地球温暖化対策に資するアンサンブル気候予測データベース)のバイアス補正法に関する研究内容のほか、今後の気候変化に対して適切な治水適応策を検討するための「治水対策事業費の簡易推計法」が紹介されました。水害リスクが極めて高い低平地の治水対策を今後検討していく上で、重要な考え方を学ぶ機会となりました。

都市空間専門部会部会 講演会の共催

3月29日(火)13:00~17:00に第22回佐賀大学コミュニティデザインカフェによるイベント「建築を教授することの射程環境と時間と距離」を共催しました。本イベントの第一部では講師に倉方俊輔氏(大阪市立大学教授)と辻原万規彦氏(熊本県立大学教授)をお招きした講演会が開かれ、第二部では両氏を交えての佐賀大学理工学部3年生の建築設計課題の講評会が行われました。講評会では他学年の学生の作品も同時に公表する“バーティカルレビュー”を初めて試みましたが、学生には有意義な機会となったようです。



参加者の集合写真

低平地研究の発行

低平地研究No.31が7月に発行されました。今号では「SDGs達成に向けた廃棄物再利用の取り組み」と題して、佐賀県内で行われている廃棄物に関わる取り組みを紹介する特集記事が掲載されています。バックナンバーはウェブサイトにて会員限定で公開されています。

編集後記

まさかの早々の梅雨明けと猛暑で紫陽花を撮る機会を逃してしまいました。冒頭の写真は3年前のものです。

編集：三島悠一郎、後藤、武富 (lora@lora-saga.jp)